

✓ 自宅退院に向け調整したが、退院前カンファレンス後に転院となった事例

第4回在宅事例検討会

当院では、医療と介護の連携強化を図っていくことを目的に在宅事例検討会を開催しています。

平成26年12月9日(火)に第4回「在宅事例検討会」をグループワークの形式で開催しました。参加者は院外：23名(医師、看護・保健師、訪問看護師、ケアマネジャー、MSW、相談員、事務職員等)、済生会病院：33名(医師、看護・保健師、MSW)計57名でした。

今回は、済生会病院から転院となった事例について考えてみました。テーマを「自宅退院に向け調整したが、退院前カンファレンス後に転院となった事例」とし、当院内科主治医、退院調整に関わったMSWから事例発表を行ってもらった後、参加者から発表者への質問の時間を設けました。その後、8つのグループ(他職種によるグループ編成)に分かれ意見交換会を行っていただきました。

事例は、本人の希望を受け、自宅退院に向けて調整していたが、維持透析が必要であり、受け入れ

る家族(長女さん)が不安を感じており、結局転院となった。しかし、転院後の事を追跡調査した結果、転院先を1週間で自宅退院し、現在は自宅から透析に通っているという内容でした。

発表の中で、問題点として挙げられたのは「本人が望む“自宅退院”につながるためには、どのようなことが必要と考えるか？」ということでありましたが、各グループでは様々な意見が出されました。

- ・試験外泊の実施について
- ・退院前カンファレンスへの参加者とカンファレンス内容について
- ・ケアマネジャーの関わりについて
- ・かかりつけ医への依頼について
- ・退院後の具体的な生活をイメージした指導について
- ・退院前カンファレンスへの参加者とカンファレンス内容について
- ・介護認定をふまえた生活支援の説明について
など

アンケートの結果からも「介護保険の知識を持つことが、在宅での介入に役立つ」「病院スタッフ・在宅スタッフと一緒にグループワークをすることは相互理解が進むので良い」「本人の思い、家族の負担軽減を語ってくれたのが医師だったのが嬉しかった」「他施設の方と意見交換ができたのが良い」などの意見が聞かれました。

今後も、様々な事例を取り上げ、グループワークを通して他職種で考え、連携していくことができるような、在宅事例検討会を開催していきたいと思っております。



(グループワークの様子)

在宅事例検討会

開催日時：不定期開催

お問い合わせ先：地域医療連携室 TEL:0776-28-8521